

教育協議会研究

○ブロック交流研究会研究

塩山ブロック	-----	129
塩山北ブロック	-----	131
松里ブロック	-----	133
山梨南ブロック	-----	135
山梨北ブロック	-----	137
笛川ブロック	-----	139
勝沼ブロック	-----	141
大和ブロック	-----	143

○特別部会研究

児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会	-----	145
----------------------	-------	-----

「小中学校の交流を図る中で
地域の様子や子どもたちの様子を知り、
連携して塩山中中学校区の子どもたちを
育てていこう」

I 主題設定の理由

「地域の子どもは地域で育てよう」の考えのもとに地域に開かれた学校づくりが進められている現在、学校現場においても小中の連携の必要性が高まっている。新設されたブロック交流研究会の役割は、小中の教員が共通の課題意識をもち、子どもたちの育成にあたることだと考える。そのためには、小中の交流の中で、地域を知る・子どもを知ることが第一段階であると考え、標記の主題を設定した。

II 研究の具体的内容

1 第1回ブロック交流研究会「地区めぐり」

- (1) 日時 8月17日(水) 13:30~16:00
- (2) 目的 地区内の文化財や産業等の見学をとおして地域を知り、子どもたちの学習に役立てる。
- (3) 内容 ①4つのコースに分かれて地区めぐりをする。
②各学校ごとに4つに分かれて参加する。
 - ア 文学コース【樋口一葉先祖の屋敷跡及び墓地、一葉の母の生家、真下晩菘の生家、慈雲寺】
 - イ 歴史コース【続・新撰組の遺跡をたずねて「明治の夜明け」
松泉寺、護念寺、柏尾の遺跡、駒飼宿、大善寺】
 - ウ 産業コース【マンズワイン株式会社、向山蘭園】
 - エ 福祉コース【スイートハウス、特別養護老人ホーム「光風園」】どのコースも、施設の方や講師の方に丁寧に説明していただき、充実した内容であった。また、小中の先生方のよい交流の機会とすることができた。

2 第2回ブロック交流研究会「塩山中中学校授業公開」

- (1) 日時 11月9日(水) 授業参観 14:25~15:15
交流会 15:30~16:30
- (2) 目的 塩山中中学校の授業の様子と各小学校の卒業生の様子を小学校の教職員が参観し、交流を図る中で、塩中学区の課題を明らかにし、連携して子どもたちを育てていく。
- (3) 内容 ①中学校の授業の様子を小学校の教職員が参観する。
②分科会に分かれて交流する。
③校内研の研究内容などについて交流をする。
④学区の課題等について話し合う

授業参観の後、2分科会に分かれて交流会をもった。前半は、塩山中学校の様子を話していただき、後半は授業参観の感想と意見交換を行った。

3 第3回ブロック交流研究会「塩山南小学校授業公開」

(1) 日時 1月18日(水) 授業参観 14:00~14:45
交流会 15:00~16:00

(2) 目的 塩山南小学校の授業の様子を中学校の教職員及び他の小学校の教職員が参観し、交流を図る中で、塩中学区の課題を明らかにし、連携して子どもたちを育てていく。

(3) 内容 ①塩山南小学校の授業(全クラス公開)の様子を塩中、北小、奥小の教職員が参観する。

②分科会に分かれて交流する。

③学区の課題等について話し合う

授業参観の後、2分科会に分かれて交流会をもった。前半は、塩山南小学校の子どもの様子を話し、後半は授業参観の感想と意見交換を行った。

III 成果と課題

○ブロックとしての交流が図れた。特に授業を見せてもらったのがよかった。

○小中の交流は、中学校での子どもたちの様子を知ることができ、改めて基礎となる小学校生活をふり返ることができた。

○地域産業としての蘭園、一葉にかかわることなどを見学でき、身近なことを楽しく学習できてよかった。自分たちの地域を知ることとはとてもよい経験になった。

○義務教育9カ年といっても小学校と中学校の人事交流が皆無に近いため、お互いどのように子どもを教えているか分からない。そういった意味では意義深い。

○塩山中学校では、卒業生の様子を参観できたり、中学校の様子について話が聞けてよかった。

○今後も継続して取り組んでいただきたい。

○それぞれの学校をお互いに訪問しあい、学習環境、児童の様子、教師の教育の実情などを視察研修させていただく機会があるということは大切なことであると思う。

●交流会は「授業研究」「生徒指導」「教育環境」など課題は多岐にわたるが、継続して・計画的に年度計画を立案してみてもどうか。

●交流会の討議の柱を立てるともっと深まった話し合いになるのではないか。例えば、授業の何を交流するのかを明確にしたり、交流を少人数とするなどの工夫もあっていいのではないか。

●地区巡りについては、同じコースにならないように検討して行ってほしい。また、内容、方面などを検討することも考えていくとよい。

●交流会の記録を残し、保護者や地域への情報発信をする方向性を検討したい。

●教科もしくは生活面なども含めて、小学校から中学校までの成長過程を意識し、一貫したテーマで見通せるような研究会であればよい。

(ブロック長 古屋 宏記)

小中の連携をはかり、塩山北中学区の子どもたちを育てていこう

I 主題設定の理由

今年度も昨年度と同様に、同じ地域で学ぶ子どもたちを教育する立場で、地域の子どもの特長を知り、地域の願いを共有し、小中一貫した指導を行うために交流を図ったり、連携を強化したりしていきたいと考え、この主題を設定した。

II 研究内容

- 1 塩山北中学区内の文化財等の臨地研修
- 2 中学校の授業参観と情報交換
- 3 小学校の授業参観と情報交換

III 研究の経過と概要

1 臨地研修（第1回の内容）

(1) 目的 地区内の自然、文化財などを見学して、地域を知り、子どもたちの学習に役立てる。

(2) 日時 8月17日（水） 午後1時30分～

(3) 場所、詳細

①慈雲寺・雲峰寺コース

- ・慈雲寺さんから樋口一葉についてのお話を聞く
- ・休憩（お抹茶をいただく）
- ・雲峰寺でお話をうかがう
- ・宝物館を見学

②水晶山コース

- ・玉宮小集合、出発徒歩にて
- ・水晶山到着、水晶採取
- ・水晶山下山、玉宮小到着、解散

2 中学校授業参観（第2回の内容）

(1) 目的 中学校全学年の授業を参観し、生徒の様子と小中の連携について話し合う。

(2) 日時 11月9日（水） 午後2時30分～4時50分

(3) 日程 授業参観 2時30分～3時20分 各教室
研究会全体会 3時40分～4時50分 パソコン室

(4) 全体会内容

- ①はじめの言葉
- ②塩山北中校長あいさつ
- ③ブロック長あいさつ（副ブロック長の紹介も含む）
- ④話し合い
 - ・中学校での生活の様子について

学年主任より各学年の様子について（3年、2年、1年）

- ・小中で共通に取り組むべき課題について

小学校、中学校への要望など（学習面、生活面）

⑤講評、指導助言

⑥おわりの言葉

3 小学校授業参観（第3回の内容）

(1) 目的 各小学校の授業を参観し、その小学校児童の様子と卒業生及び来年度、入学する6年生の具体的な情報交換を中心に行う。また、小中の連携について話し合う。

(2) 日時 1月18日（水） 午後2時30分～4時50分

(3) 日程 授業参観 2時30分～3時15分 各教室
研究会全体会 3時30分～4時50分

(4) 懇談会内容

①はじめの言葉

②小学校校長先生あいさつ

③副ブロック長あいさつ <懇談会の進め方についての説明を含む>

④話し合い

- ・小学校での児童のようすについて
- ・本日の授業について（授業者より）
- ・本校児童のようすについて（教務主任より）
- ・来年度の中学校入学生について
- ・小中で共通に取り組むべき課題について 他

⑤講評、指導助言

⑥おわりの言葉

IV 成果と課題

- ・地域の貴重な文化財を見学することができ、今後の教育活動に大いに生かされるのではないだろうか。
- ・授業を通して、卒業生の様子やこれから入学する児童の様子を参観することができた。また、各学年の様子や課題なども教え合い、これからの指導の課題がみえてきた。
- ・意見交換の中で小中の実態や願いなどもわかり、各校での取り組む視点も明確になった。
- ・臨地研修については、北中学区に限らず、範囲を広げていってはどうか。（甲州市内、県内各地、普段いけない所）
- ・小学校への参観が3校同時であると、中学校の職員が分散してしまうので少なくなってしまう。小学校どおしの交流もできるとよいと思う。ローテーションについては検討していく必要がある。また、授業参観という形態だけではなく、中学校の部活動など見てもらうのもよいのではないか。
- ・臨地研修に関しては、地域の専門家や地域のボランティアスタッフ等に教えてもらえるような機会があってもよかった。
- ・予算面の確保があればよい。

（ブロック長 吉澤 直樹）

同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために 小・中・地域の交流と連携を深めよう

I 主題設定の理由

今年のブロック交流研究の目的を、本ブロックでは以下のように掲げた。

- ・同じ地域に学ぶ子どもを教育する立場で地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流を行う。
- ・地域との連携を強化し、「地域の子どもは、地域で教育する」という視点で地域の教育力の向上を図る。
- ・小学校・中学校の連携を強化し、小・中の系統的な教育のあり方を研究する。

3年目を迎えた本年度も、これらの目標を継続して交流研究を進めることにより、共通理解がさらに深まると考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

第1回（8月17日）塩山市民文化会館

本年度の組織と活動方針・概要を確認した後、各校の研究推進委員がそれぞれの校内研究の概要の説明をした。

井尻小学校 「意欲的に取り組み、自ら追究する児童の育成」
～ 個に応じた学習指導方法の充実を通して～

松里小学校 「子どもたち一人一人の確かな学力を高める工夫」
～ 学びの意欲を高める指導の工夫を通して～

松里中学校 「生きる力を育成する教育の創造」
～ 豊かな心を育み 基礎学力を定着させる指導と評価の工夫～

後半は山梨県立博物館の植原彰先生を講師として招いて、博物館の展示内容と利用方法の説明や、乙女高原の自然保護活動についての講演を行っていただいた。乙女高原の自然は人の手が入らないと維持されない自然であることや、環境教育に生かせる様々な活動例を聞くことができ有意義だった。

第2回（11月9日）松里小学校

松里小全学級の授業参観の後、意見交換をした。学びの意欲を向上させるために、指導に生かす評価、主体的な学びの実践を中心とした研究について学んだ。

第3回（1月18日）井尻小学校

井尻小全学級の授業参観の後、総合的な学習についての質問や説明、井尻小児童の「命・塾・基本的生活習慣」に関わる調査の結果をもとに意見交換をした。また、本年度の交流研究会のまとめと来年度の方向性について話し合った。

Ⅲ 成果と課題

成果

- ・小・中の交流ができて互いの教育活動の様子がわかった。地域の子どもたちを見る教師として、それぞれの立場から意見を交換することができ、理解が深まった。同じ地域の子どもたちのための情報交換ができたことは大きな成果だった。
- ・つながりがあるようで意外とその実態を知らない現状がある。松中ブロックの取り組みはそういった意味で互いの様子を知る良い機会であり、実のある研究になったと思う。
- ・小学校側からは卒業生の様子、中学校側からはこれから入ってくる子どもたちの様子を知ることができる良い機会となっている。

課題

- ・教科ごと9年間を見すえた指導ができるようになるとうい。例えば、小学校でおさえおいてほしいところなどの話が、要望も含めてできればよい。
- ・回数が少なく多忙な中で難しいかもしれないが、この地域の子どもたちの特徴といったものが（良い面でも課題となる面でも）出せるのであれば明らかにし、共通の課題に取り組むようなことはできないだろうか。また、その課題に関わった講演ができたと思う。
- ・互いを知った上で、その成果を今後のブロック研の中で具体的にどう生かしていくかが課題である。
- ・子どもたちの成長は小学校時代、中学校時代というような線引きはできない。発達段階を考えた連携のあり方が必要であろう。

来年度への要望

- ・授業参観の時期を3校でうまく組んで、来年度もぜひ継続してもらいたい。
- ・子どもたちの家庭生活、生活習慣について小・中統一したアンケート等を取り、9年間の変化を継続的にとらえていくような研究も必要ではないか。
- ・小・中互いにゲストティーチャーなどとして授業に関わるようなことができたらい。
- ・今後も従来通りにお互いに負担にならないようにする。

3年を1サイクルと考えると今年で一応の区切りがつく。まとめの話し合いの中では、授業公開、臨地研修、講演等の企画の3つを担当校の輪番制で実施したらどうかなどの案が出ているが、来年度以降、どのように交流研究を進めていくかについては各校で検討しておくことになった。基本的には我々が最も大事にする授業を互いに見せ合い、地域の児童・生徒の様子の情報交換をしたり、お互いの考えを出し合ったりして、相互理解を深めながら研究を進めることが大事であると考え。

(ブロック長 武井文明)

「望ましい小中の連携について」

I 主題設定の理由

- ①同じ地域に学ぶ子どもを教育する立場で、地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流をする。
- ②地域との連携を強化し、「地域の子どもは地域で教育する」という視点で、地域の教育力向上を図る。
- ③小学校・中学校の連携を強化し、小中の系統的な教育のあり方を研究する。

II 研究の内容

昨年度の反省を生かし、1回目は情報交換をおこない、2、3回目は小学校、中学校のおいての授業を参観し、授業を通しての系統的な教育のあり方を研究し、交流を深めた。

【第1回】8月17日(水) 於：山梨勤労者福祉センター 13:30～
・小学校区に分かれての情報交換及び懇談

【第2回】11月9日(水) 於：山梨小
・「小学校における英語活動」参観
学年 6年1組
指導者 アレキサンダー・リー先生 深沢ひとみ先生
内容 Main Phrasc : Which way?
・研究協議

【第3回】1月19日(水) 於：山梨南中
・中学校英語授業参観
学年 1年4組
指導者 辻 純二先生 ガレス・ウー先生
題材名 Let's Save the Earth 「地球を救おう」
Sunshine English Course1(開隆堂) Program10
研究協議
講師 山梨県立大学 杉田 由仁先生

III 成果と課題

1 成果

- ・小中の関連を考えた取り組みと親睦を深める目的が達成できた。

- ・小学校区ごとの情報交換及び懇談会はお互いの学校の様子を知る上で大変有効であった。
- ・授業が小・中どちらも英語だったので良かった。
- ・授業内容を比較することもできて良かった。
- ・小学校での英語活動を見てから中学校の授業を見たので、子どもの様子や授業内容を比較することもできて良かった。
- ・教育現場の現状に即した内容を今年度も取り上げることができ良かった。
- ・日頃小中の授業や活動状況を互いに見ることも交流する機会もないので、機会が作られ実際に直接目で見たり耳で聞いたりできたことは教育活動を広げたり深めたりする一つの要素となったと思う。
- ・小中英語の授業参観，研究会を通して小学校の英語の授業がどのように中学校へ繋がっていくのか検討することができた。
- ・他校での実践を参観することができ，有効だった。思ったよりスムーズに英語のクラスにとけ込んでいる生徒たちの様子から小学校段階でネイティブな発音に慣れていることがメリットとして出ているように感じた。今後は小学校での英語活動のあり方について前向きに探っていくことが必要になるのではないかと。制度をうまく利用して教育的効果をあげていきたい。

2 課題

【内容について】

- ・9年間という義務教育を見通し卒業した子どもがどう成長していったか，育てっぱなしでない責任ある交流をもつことが子どもたちを良くしていくことに繋がると思う。
- ・小中が互いに望んでいることを積極的に出せるといい。
- ・授業はお互いを見ることができたが「連携」を考え，より深まると良かった。
- ・小学校を卒業した子どもたちの姿が見えるような何か取り組みができればよいと思う。
- ・今年度の「英語」の取り組みはとてもよかったので，来年度の取り組みとして「総合学習」の小中連携をどう捉えていくかなどを考えてみてはどうか。
- ・回数が限られていることから，その内容も難しいと思われるが，授業をした時，教科研のようになっていくのは交流としてはどうなのかと感じた。授業視点も工夫していきたい。

【方法について】

- ・来年度も一つのキーワードで取り組めたらよいと思う。
- ・小中お互いに日常の学習・生活の様子を参観できるよう，授業研という形ではなく，日にちだけ設定して普段の授業を参観できるようにしたらどうだろうか。
- ・研究内容を決めることが難しく思う。ブロック交流研究も年度を重ねているので，研究を深めることを考えると今後の研究方法を工夫していく必要があると思う。

(ブロック長 武井 由美)

山梨北ブロック交流研究会

小中の連携を深め、山梨北ブロック の児童・生徒の指導に生かす

I 主題設定の理由

ブロック交流会も、今年で3年目を迎えた。この会の目的として、次の3点が挙げられる。

- ・同じ地域に学ぶ子どもを教育する立場で、地域が抱える教育問題を共有し、その解決に向けた交流を行う。
- ・地域との連携を強化し、「地域の子どもは、地域で教育する。」という視点で、地域の教育力向上を図る。
- ・小学校、中学校の連携を強化し、小中の系統的な教育のあり方を研究する。

普段交流の少ない、小学校、中学校の教職員が話し合い、課題を見つけ、よりよい解決の方法を探ることは、大切なことであり、山梨北ブロックの児童・生徒の健全な育成につながると考え、この主題を設定した。

II 研究の内容

1 第1回ブロック交流研究会

- (1) 日時 2005年 8月17日(水) 午後1時30分～
- (2) 場所 東山梨合同庁舎 会議室
- (3) 内容
 - ア 開会の言葉
 - イ 山梨市教育協議会副会長のお話
 - ウ 諸注意
 - エ 8グループに分かれて話し合い
 - ・自己紹介
 - ・二学期制について
 - ・成績の伝え方
 - ・児童、生徒の様子
 - ・身に付けさせたい力 など

2 第2回ブロック交流研究会

- (1) 日時 2005年11月 9日(水) 午後2時～
- (2) 場所 山梨北中学校 各教室
- (3) 内容
 - ア 山梨北中学校の、平常通りの授業を参観
 - イ 教科ごとに分かれて話し合い

3 第3回ブロック交流研究会

(1) 日時 2006年 1月18日(水) 午後1時55分～

(2) 場所 日下部小学校, 後屋敷小学校 各教室

(3) 内容

ア 日下部小学校, 後屋敷小学校の, 平常通りの授業を
参観

イ 低学年, 中学年, 高学年に分かれて話し合い

III 成果と課題

第1回ブロック交流会は, あらかじめ各校の先生方を8つのグループに分け, 司会者も決めておいたので, スムーズに進行することができた。また, 話し合いの中では, 小学校は今年度から二学期制になり, 夏休み前に児童の様子や成績を, どのように保護者に伝えたか, などの情報交換ができ, 大変有意義であった。

第2回ブロック交流会では, 山梨北中学校の授業を参観し, 各小学校から卒業していった子どもたちの成長ぶりや現在の様子を見ることができた。終了後の話し合いの中では, 小学校で特に身に付けておいてほしい学習内容や生活習慣なども出された。

第3回ブロック交流会は, 今年度は, 日下部小, 後屋敷小の2つの小学校の授業を, 北中と八幡小, 岩手小, 堀之内小の先生方が参観した。昨年度は, 5つの小学校すべてに, 北中の先生方が分かれて参観したが, 授業をしているクラス数に比べて, 北中の先生方の人数が少なく, すべての教室の参観ができなかったこと, 小学校の先生方が他の小学校の授業を参観する機会が少ないことなどから, 今年度は, このような形式で行ってみた。

来年度は, 八幡小, 岩手小, 堀之内小で授業を参観する予定である。

授業参観終了後に行われた話し合いでは, 不審者対策や, 家庭学習の習慣づけなどの情報を交換し合った。

来年度も, 今年度と同じような形態でブロック交流研究会を行っていく予定であるが, 3回とも情報交換が主なので, もう少し「地域」を意識し, 例えば, 夏休みに行われる第1回ブロック交流会では, 地域の史跡めぐりや自然にふれあうような臨地研修を行ってはどうか, などの意見も出されているため, 今後の課題としたい。

(ブロック長 飯島 貴)

～小・中学校の連携を深めると共に、
地域の様子や子ども達の実態を知り、
日頃の子ども達の指導に役立てよう～

I. 主題設定の理由

昨年度は、上記のテーマのもと、子ども達の生活の基盤となる地域の様子を実際に臨地で研修し、中学校の授業参観と懇談会を行った。今年度も引き続き同テーマを掲げ、取り組みを継続することで、研究を深めて行きたいと考えた。

II 研究の内容

1 研究の具体的内容与方法

(1) 「 臨地研修会 」

8月17日(水) 1:30～ 場所 3地区
〈牧丘第二小学校地区〉 講師 小林 匠 氏
〈牧丘第三小学校地区〉 講師 藤原 孝信 氏 ・ 小野 徹 校長
〈三富小学校地区〉 講師 山口 義雄 氏

(2) 「 二学期制にむけて 」

11月9日(水) 3:30～ 場所 牧丘第一小学校
講師 峡東教育事務所 副主幹 鈴木 茂 先生
山梨市の中学校導入の経緯や小学校導入の経緯等について話を伺った。その後の質疑応答では多くの意見が交わされ、ブロックとして二学期制にむけての共通認識ができたように思う。

(3) 「 小学校(高学年)の授業参観と交流会 」

1月9日(水) 3:30～ 場所 各小学校

○ 牧丘第一小学校

〈授業参観〉

第5学年 算数科 「くらべ方を考えよう」 志田 市造
第6学年 算数科 「割合の表し方をかんがえよう」 岩下 秀人
みどり学級 算数科 「水のかさをはかろう」 飯島 和雄

〈交流会〉

与えられたことはよくがんばるが、更にアイデアを加えたり、意欲を持ってその上を目指したりという発展性が乏しい。集団としてのリーダー、集団を高めさせる、学習集団、学級集団を育てるなど、集団づくりが大切。

○ 牧丘第二小学校

〈授業参観〉

第5学年 音楽科 「情景を思い浮かべて」 倉田 和美

第6学年 社会科 「憲法とわたしたちの暮らし」 伊藤 淳司
(交流会)

「表現力が弱い。学力的には十分で良い子が多いが、パワーに欠ける。友達に援助の手を差し伸べられない。人間関係が作れない子どもが増えてきたのではないか。」など、指導の面での気になる課題が出された。

○ 牧丘第三小学校

(授業参観)

第6学年 算数科 「変わり方を調べよう」 精進 重仁
たんぼぼ学級 生活単元学習 「もうすぐ卒業！」 岡 京子

(交流会)

中学校から ・他の中学校に比べ、心を開くのに時間がかかる(自分を出すのが苦手)。
・競い合って、がんばろうとする面が弱い。よく言えば謙虚で人が良い。純粋でよい子が多いが、競争心をどうつけていくかが課題。

○ 三富小学校

(授業参観)

第5学年 国語科 「どんなとき、だれに」 津野 千尋
第6学年 総合的な学習の時間
「していこう、わたしにできるボランティア」 中村 弘和
たんぼぼ学級 算数科

「大きな数、お金、順序性のある数、形の描き方」 杉田 廣信

(交流会)

・学年があがるに従って、挙手が少なくなる傾向があるように思う。
・「分かる」ことから「身につけること」が大切なのではないか。
・中学に入学するまでに、人の話がしっかり聞けるようになってほしい。などの意見が出された。

III 成果と課題

成果 ・小中学校の先生方のよい交流の場となった。

・牧二、牧三、三富学区内での地域の自然や文化財について学ぶことができ有意義であった。

・二学期制について研修することができ、講師の先生の話は参考になった。

・各小学校高学年の授業参観と交流会を通じて地域の子どもの様子を知り、共通する良いところを再認識したり、今後の課題について話し合ったりすることができて有意義だった。

・教育活動の取り組みを少しずつ理解しあえるようになってきた。

課題 ・小中の交流の場であるということを念頭に置き、隣地研修や授業を担当する学校に過度な負担がかからないように留意したい。

・山梨市との合併に伴い予算が少なくなったため、講師料等を用意するのが大変であった。

(ブロック長 岡 京子)

お互いに交流し研究を深めることにより、
小中の連携を図り、
同じ地域に生活する児童・生徒に対する
系統的な教育のあり方を追求する

I, 主題設定の理由

同じ地域の子どもの育成に携わる教職員が、ブロックの3回の交流研究の機会を通して、意見交換をし、地域や児童・生徒の実態をより理解し、共通理解のもとに今後の指導に生かせるように研究を進めていきたい。

そのために、本年度も上記テーマのもと、臨地研修・今日的課題についての学習・小中の交流・意見交換の機会を設け、共通の課題意識を持ち勝沼地区の子ども達の育成にあたることができるように研究を深めていくためにこの主題を設定した。

II, 研究の内容

1, 第1回ブロック研究会

(1) 日時 平成17年8月17日(水)午後

(2) 目的 「地域の人材や施設を活用した臨地研修会」

地域の自然・産業・文化のよさを知り、地域に生きる子ども達の教育に生かしていく

(3) 内容・コース

ア、トンネルワインカーブ見学

赤レンガを利用したワインの貯蔵施設の見学

大日影トンネル・勝沼トンネル・龍憲セララー

イ、地域探索と陶芸教室

勝沼ワイングラス館の見学・勝沼焼き陶芸体験

ウ、ぶどうの丘周辺見学

交流会をかねた昼食会(ぶどうが丘)

ぶどうの丘施設見学・三光寺の見学(庭園・太子堂ほか)

エ、ワイン工場見学

勝沼町の地場産業であるワイン造りについて研修

ワイン用ぶどう畑の見学・ワイン工場(勝沼醸造)研修

2, 第2回ブロック研究会

(1) 日時 平成17年11月9日(水) 3:30~

(2) 目的 勝沼地区の小中に関わる今日的な問題についての講演会において
研修を深める

(3) 内容 講義 子ども達の表現力を高めるために
「言語コミュニケーション能力ー説明的な表現力を伸ばすー」
講師 山梨大学教育人間科学部国語教育講座
教授 岩永 正史先生

(4) 講演会后 研究主任会

3, 第3回ブロック研究会

(1) 日時 平成18年1月18日(水) 2:15~

(2) 目的 小学校の授業の様子を参観し、交流を図る中で、連携して子ども
達を育てていく。
情報交換及び懇談を通し学んだことをそれぞれの学校の教育活動
に生かしていく

(3) 内容 小学校の授業参観(2:15~3:00)
勝沼小学校 各学年・コスモス教室 授業提供
小中学校の情報交換・分散会
生徒指導・総合的な学習の時間・特別支援教育・各教科等
7つの分散会に分かれて情報交換を行った。

Ⅲ, 成果と課題

1, 成果

- ・臨地研修は、地域の特性を生かした活動や各分野からの学習等、地域について理解を深めることができ大変勉強になった。他地域からの勤務者にとっても有意義である。
- ・講演会での作業を取り入れた学習は言語について見直すよい機会となった。
- ・勝沼小の授業を参観し大変勉強になった。各学年の授業の焦点がはっきりしており感心した。
- ・テーマ別分散会おいての小中の情報交換は実りあるものであった。町内の小中の連携を深めることができた。

2, 課題

- ・来年度も臨地研修・授業参観・分散会を組み合わせたいとする意見が多い。
- ・授業については、2学期がよいとの意見も出ている。時期や回数については来年度の課題である。
- ・内容については、課題を決め、分散会を3回継続したらより有効ではないか交流・情報交換の機会等増やしたらどうかなどの意見も出ている。
- ・今後も、小中間の共通理解協力体制のもと研究を進めていきたい。ただ、各校とも多忙化の中、できる範囲で進めていきたい。

(ブロック長 中村真理子)

「小中の連携を深め児童生徒の 教育課題についてともに考えよう」

I. テーマ設定の理由

これまでの2年間で、授業参観等を通して具体的な児童の様子を話題としながら、児童生徒の学習課題・生活課題について話し合うことで、小中の連携のあり方について探ってきた。今年度も、これまでの内容をもとに、連携の意義の確認と児童生徒の抱える様々な教育課題について小中学校の教職員がともに考えることで、連携を深めることができればこのテーマを設定した。

II. 研究の内容

(1) 第1回 平成17年8月17日 会場 大和村ふるさと会館

- ①今年度のブロックの研究テーマと活動計画の話し合い。
- ②中学校より1年生の1学期の様子の情報提供をもとに、学習指導・生徒指導上の課題等を話し合った。
 - ・小学校の低学年の時から児童の様子を話す中で、どのような経過を経て現在に至っているのかが中学校側にも理解でき、指導の参考となった。
 - ・小学校側でも情報を共有したことで、中学生が抱えている課題について少しでもサポートしていければと考える。
 - ・子どもたちにとって、小学校から中学校への大きなハードルがあり、それをうまくクリアし中学校生活に適応していくことができるよう、小中間の連携が大切と考える。

(2) 第2回 平成17年11月9日 会場 大和中

- ①小学校の先生方による大和中学校の授業の参観。
- ②教科担当（国語・算数・理科・体育・英語）や校務分掌（保健・給食）ごと小グループでの話し合い。
- ③全体での授業参観の感想と学習指導に関わる話し合い。
 - ・中学校の授業の様子を参観することで、子どもたちの様子を知ることができた。
 - ・授業参観で、小学校の教科の内容が中学校の授業にどのようにつながっているか知ることができた。
 - ・担当毎の話し合いで、それぞれの教科学習における子どもたちの現状について共通理解がはかれた。また、指導の系統性について話し合うことができた。
 - ・全体会では、学習指導における連携のあり方についての今後の課題について話し合われた。総合の時間の「情報を集める・まとめる・発表する」などの力が大切になっている。国語力向上という課題についても「話を聞く・考えをまとめる・発表する」といった力育てていきたいと考えているので、小学

- 校から同じ考え方で指導していけるような連携が行われればよい。
- ・ 交流の大切さについてはわかってきたので、交流の方向を探る必要がある。学習内容・指導法など9カ年の連続性を考えて計画的・継続的・系統的に学習指導に活かしていけるとよい。
 - ・ 小中のギャップを言われるものは何か。子どもの視点に立って考え、それを埋めていく手だてや先生方の多様な試みを発表する場としていきたい。

(3) 第3回 平成18年1月18日 会場 大和小

- ① 中学校の先生方による小学校の授業参観。
- ② 6年生の児童についての情報交換。
- ③ 今年度の研究のまとめの話し合い
 - ・ 小学校の先生方のきめ細やかな指導の様子が参観できた。子どもたちの様子も知ることができた。
 - ・ 6年生の様子について担当だけが聞くよりも、多くの先生が把握しておくことができるのでよかった。
 - ・ 今年度の成果と課題についての話し合いと来年度にむけての方向性について話し合うことができた。どの回でも、連携の大切さは先生方皆が理解することができたと思う。よりよい連携のあり方として、方法や内容について今後の課題がだされた。

III. 成果と課題

- 授業参観を通して、普段はわからないそれぞれの学校の様子や子どもたちの様子を知ることができた。
- 児童生徒の情報を交換共有することで、小中間の教職員が子どもたちの教育課題についてともに考えていく機会となった。
- 教科ごとグループに分かれての話し合いで、教科指導の内容の関連・系統性について話し合うことができた。
 - ・ 教科担当毎の話し合いを密にするうえにも、時間を十分にとってほしい。
 - ・ 9年間の教育の連続性を重視して、どのような児童生徒を育てていくか。「学力」「運動」「たくましく豊かな心」という3つの教育の課題について話し合い研究を進めていきたい。
 - ・ 小規模校の特性を活かし、子どもたち一人ひとりに目を向けた指導・支援の連続性を考えていく。
 - ・ 教科や総合的学習の時間の内容や指導の系統性について研究を深めていきたい。
 - ・ 年間3回という研究日のなかで今年度の課題となったものがどれだけ実施できるかわからないが、3年間の研究の成果をふまえ、来年度は、研究がさらに深められるようにしていきたい。

(ブロック長 渡邊 満智子)